

男性用衣服〈ガラベイヤ〉

イスラム教とアラブの世界

B0101

サイダ/レバノン



参照資料

『アラブ・ムスリムの日常生活』 p.68、p.25

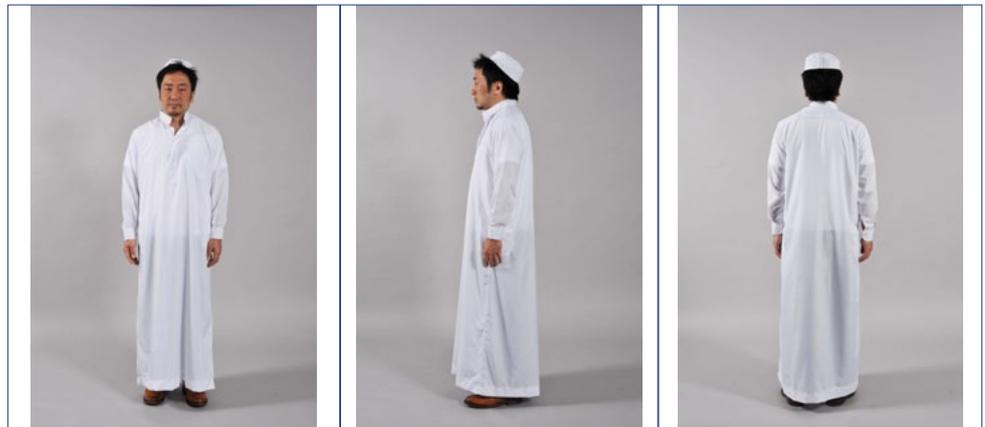
『イスラームの日常生活』 p.199

季刊民族学
No.125 p.45～59

『カラー版 メッカ』
p.23、p.27、p.36 他

着付方法：
下着をつけたあと、上からすっぽりとかぶるように着ます。

جلابية



イスラム教徒の男性の、一般的な服装です。

菅瀬先生からのひとこと

このような格好をしている男性は、今では都市部ではすくなくなりました。「ガラベイヤ」というと、田舎者を思い浮かべる人も多いようです。ちなみに、本来は「ジャッラービーヤ」が正しい発音ですが、エジプト方言の発音であるガラベイヤと呼ばれるのが一般的です。

男性用帽子 〈タギーヤ〉

イスラム教とアラブの世界

B0102

サウジアラビア



参照資料

『アラブ・ムスリムの日常生活』 p.68、p.25

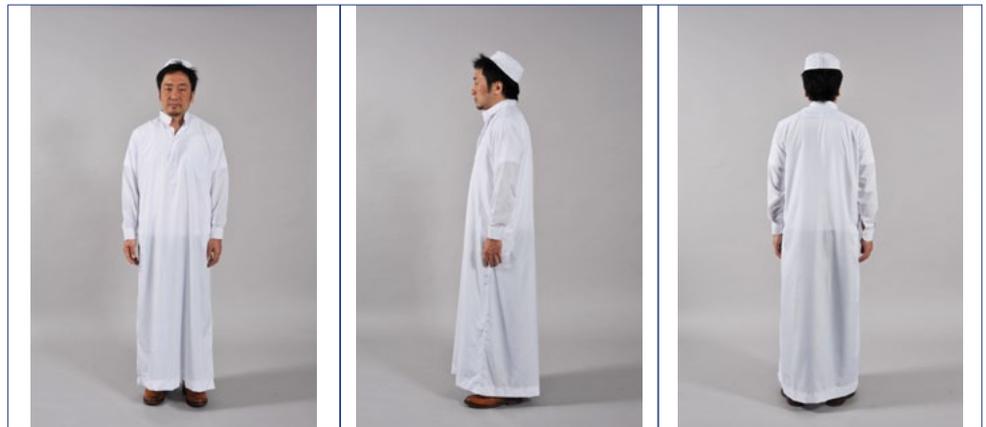
『イスラームの日常生活』 p.199

季刊民族学 No.125
p.45～p.59

『カラー版 メッカ』
p.23、p.27、p.36 他

着付方法：
頭頂部を覆うように
ぴったりとかぶります。

طاقية



男性用の帽子です。この帽子の上からスカーフのような布〈クフィーヤ〉をかぶるので、ぴったりとした小さめのかたちになります。色は白できれいな刺繍がほどこされています。かぶりものは土地によって異なっており、サウジアラビアでは帽子の上にクフィーヤをつけますが、帽子だけの場所もあるし、何もつけないところもあります。帽子の形も土地によってさまざまに異なっています。

西尾先生からのひとこと

頭にフィットしないといけないのでサイズ選びがけっこうたいへんなのですが、専門店に行くと、一目でわたしのサイズを見抜き、ぴったりの品を出してくれました。

男性衣装用 黒い輪 〈イガール〉 B0103

サウジアラビア

イスラム教とアラブの世界

参照資料

『アラブ・ムスリムの日常生活』 p.68、p.25

『イスラームの日常生活』 p.199

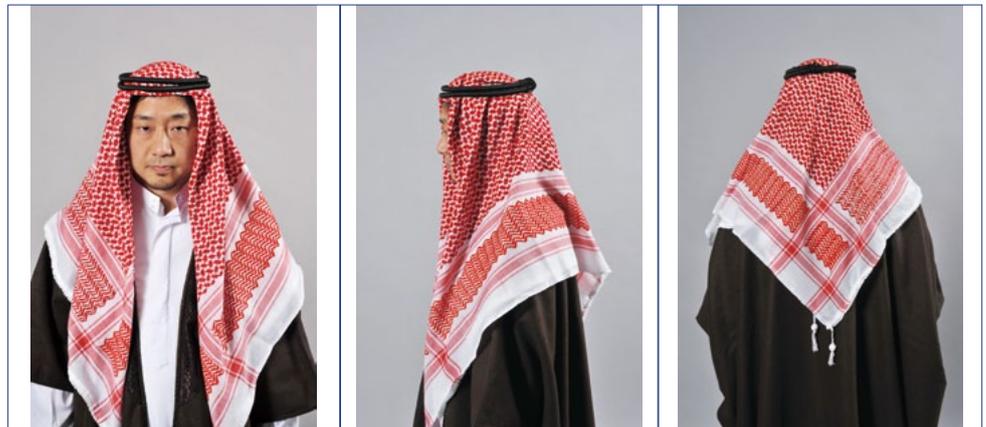
季刊民族学 No.125
p.45～p.59

『カラー版 メッカ』
p.23、p.27、p.36 他

着付方法：
クフィーヤの上からつけ、クフィーヤが飛ばないようにしっかりと押さえます。



عقال



頭からかぶるクフィーヤを押さえるためのものです。色は黒が普通です。サウジアラビアの王族は、金糸を使った豪華なものを使用しています。

西尾先生からのひとこと

かぶりものはすべて同じ店で手にはいると思って出かけたのですがこのイガールだけは専門の店であつていました。

男性用スカーフ 〈クフィーヤ〉 B0104

サウジアラビア

イスラム教とアラブの世界



كوفية

参照資料

『アラブ・ムスリムの日常生活』 p.68、p.25

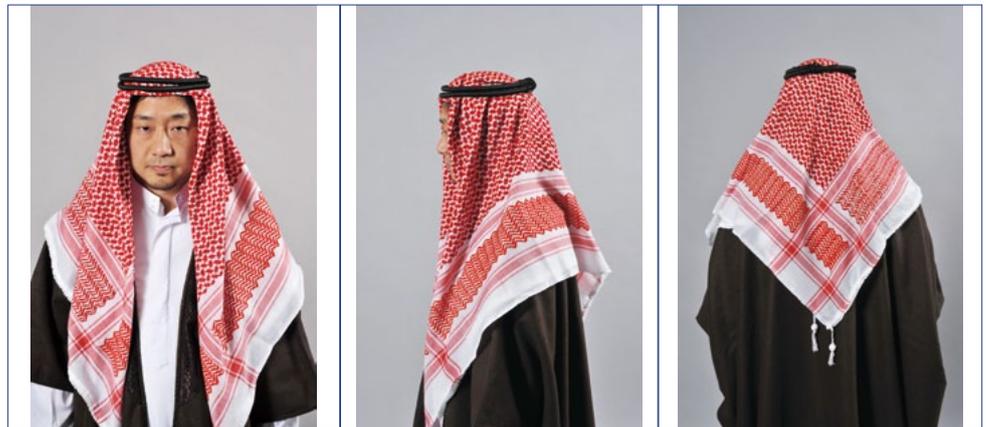
『イスラームの日常生活』 p.199

季刊民族学 No.125
p.45～p.59

『カラー版 メッカ』
p.23、p.27、p.36 他

着付方法：

すその部分で鼻や口を覆って砂まじりの風をさけたり、仕事の邪魔になるような場合は、左右のすそを頭のてっぺんで結んだりすることもあります。



土地や部族によって色や模様がさまざまに異なっており、赤の外にも黒やベージュなどがあります。北アフリカに暮らすトゥアレグ族の男性は青い布を頭と顔に巻きつけます。強烈な太陽光線から頭や顔を保護するためにも必要です。

西尾先生からのひとこと

ダンヒルやジバンシーといった有名ブランドのクフィーヤもあり、他製品に比べてかなり高価なのですが人気があります。

女子用衣装〈ヒジャーブ〉

B0105

サウジアラビア

イスラム教とアラブの世界

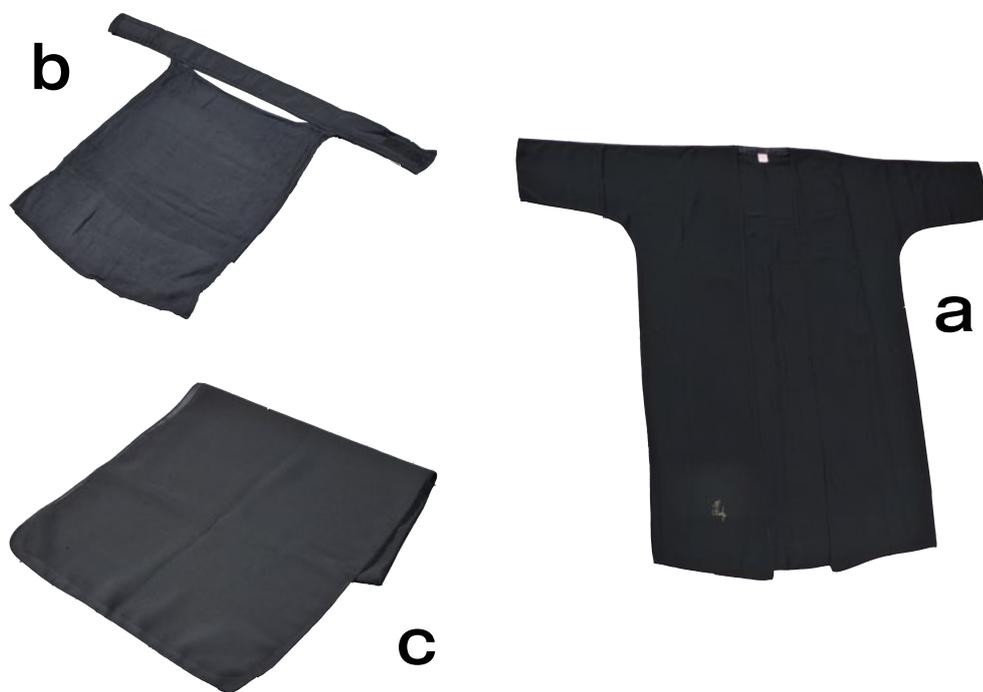
参照資料

みんぱく発見③「みんぱく電子ガイド」p.28～p.29

『カラー版 メッカ』p.36、p.49

季刊民族学 民族学タテヨコ・おしゃれ

着付方法 :
普通の衣服の上から着用します。



حجاب



イスラムの教えでは、女性はむやみに顔や肌をさらしてはいけなくとされていますが、絶対にベールをつけなければいけないと決められているわけではなく、時代や場所の違いによっていろいろなケースがあります。暑さのきびしい国々では、全身をおおう衣服を着た方がかえってしのぎやすいようです。地味なヒジャーブの下で、思い思いのおしゃれを楽しんでいる女性も多いです。女の子は、子どもを産めるようになるとヒジャーブを着るようになります。

西尾先生からのひとこと

近代になるとヒジャーブは女性差別のシンボルだからこれをなくそうという運動が起こりました。現在でも、イスラム世界の内部ではさまざまな意見がありますが、家の中ではそれぞれのおしゃれを楽しみ、外出する際にはその上からヒジャーブを着用することが多いようです。

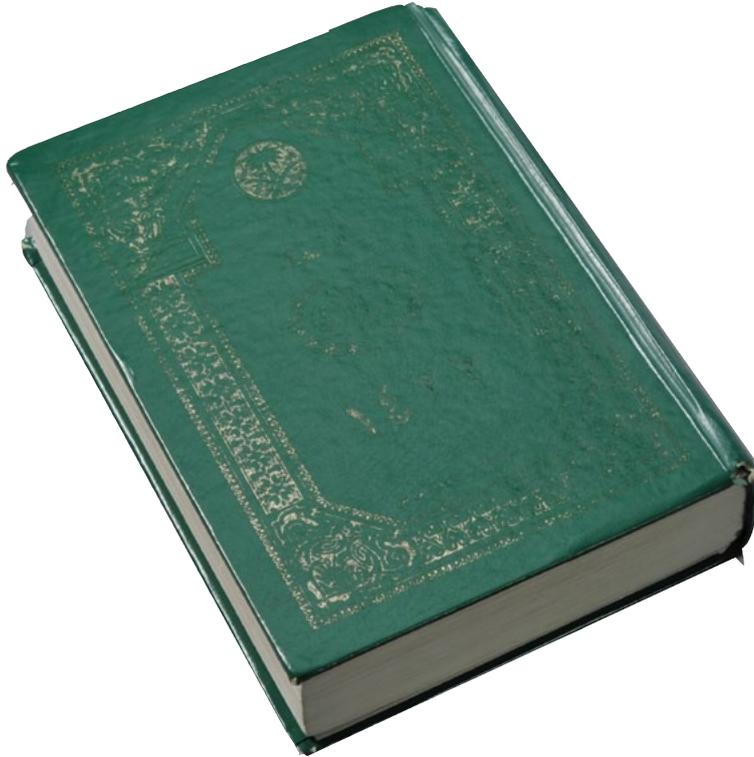
こよみ〈タクウィーム〉

イスラム教とアラブの世界

B0106

サウジアラビア

参照資料



تقويم

イスラムには独特のカレンダーがあります。預言者ムハンマドがメッカからメディナに移住（ヒジュラ）した年（西暦622年）を紀元元年として計算します。月の動きにあわせて1ヶ月を計算する太陰暦であるため、毎年少しずつ季節がずれていきます。イスラムで定められた宗教上の決まりもこれと一緒にずれていくので、ムスリムにとってこのカレンダーは必携です。

西尾先生からのひとこと

日本にも旧暦と呼ばれているカレンダーがあり、季節を表す言葉（二十四節季）などは、この古いカレンダーに基づいています。世界中には、ふだん目にする西洋式のカレンダーの他にもいろいろなカレンダーがあるのです。

コーラン〈アルクルアーン〉 B0107

サウジアラビア

イスラム教とアラブの世界



القرآن

参照資料

みんぱく発見③「みんぱく電子ガイド」p.29
～p.31

『カラー版 メッカ』
p.27

イスラム教の聖典です。預言者ムハンマドが神から聞いた言葉を記したものです。ムスリムの家庭には必ず一冊はあります。フスハーと呼ばれる独特のアラビア語で書かれています。神の言葉であるという理由で、他の言語に翻訳してはならないことになっています。世界中のムスリムは子どもの頃から、コーランを暗記する訓練を受けます。

西尾先生からのひとこと

イスラムでは偶像崇拜が禁止されており、人や動物の絵を描いてはいけませんでした。絵の代わりに飾り文字や幾何学的なデザインが発達しました。ムスリムにとっていちばん大切な書物であるコーランには、見事な装飾がほどこされているものが多く、つい見とれてしまいます。

メッカの方向がわかる磁石 (キブラ用具) B0108

サウジアラビア

イスラム教とアラブの世界

参照資料



قبلة

ムスリムは毎日メッカの方向を向いて礼拝するように定められています。旅先に大きなモスクがあればそこに行きますが、そうでないときは個人で礼拝しなければなりません。礼拝する回数は宗派によって異なりますが1日に3回もしくは5回が一般的です。

西尾先生からのひとこと

預言者ムハンマド本人も商人としてあちこちを旅行していました。アラビアンナイトに出てくるシンドバットも貿易商人です。ムスリムは昔から、商人として世界中で活躍していました。

メッカの方向とお祈りの時間がわかる時計〈ボスラト・アッサラー〉 B0109

サウジアラビア

イスラム教とアラブの世界

参照資料

取扱注意 :
ファイル「時計の使い方」をよく読んで
使用してください。



بوصلة الصلاة

メッカを示す磁石と、礼拝の時刻を知らせる時計が一体になったものです。

西尾先生からのひとこと

最近はこういう便利な商品も出回るようになりました。日本のカシオ製です。

数珠〈スブハ〉

イスラム教とアラブの世界

B0110

サウジアラビア

参照資料

みんぱく発見③「みんぱく電子ガイド」p.29
～p.30



صبيحة

イスラムで使用する数珠です。普段は手首に巻きます。イスラムの神アッラーには99の別名があるとされ、アッラーという名と99の別名の合計100個の玉をつないでいます。33個のこともあります。33個または11個ごとに形の違う玉を入れることが多いです。

西尾先生からのひとこと

日本の数珠と似ていますが、イスラムの数珠もインドから入ってきたものだとされています。使い方もほとんど同じです。指で玉にさわりながらお祈りをしていきます。玉の数が決まっているのでお祈りした回数わかります。

お祈り用じゅうたん〈サッジャーダ〉 B0111

サウジアラビア

イスラム教とアラブの世界

参照資料

みんぱく発見③「みんぱく電子ガイド」p.29
～p.31



سجادة



お祈り用のじゅうたんです。礼拝のためにモスクに行けない時はこれを使用します。じゅうたんには一般的なモスクの絵が描かれています。メッカの方向に向けてじゅうたんを敷き、その上でお祈りをします。モスクの絵が描かれていないところが礼拝用のスペースとなります。

西尾先生からのひとこと

礼拝はムスリムの大切な義務とされており細かい決まりがあります。男性と女性は別々のところでお祈りをすることになっています。

らくだのミルク容器〈ハリーブ ハラファート〉 B0114

アラブ首長国連邦

イスラム教とアラブの世界

参照資料

季刊民族学 No.125

p.54 ~ p.57



حليب خلفات

らくだのミルクです。パック詰めにしてスーパーなどで普通に売っていますが、牛乳ほど一般的ではありません。味はかなり濃いです。らくだの肉はかたくて、食用には適しません。子ラクダの肉は柔らかいので食べることもあります。アラブ世界で一般的なのは羊の肉です。

西尾先生からのひとこと

遊牧民のテントに招かれてもてなしを受けたとき、羊の頭が出てきてびっくりしました。客をもてなす最高のご馳走なのです。いちばん大事な客には羊の脳と眼球をすすめます。とろりとしてなかなかおいしかったですよ。

味の素（アジノモト）

イスラム教とアラブの世界

B0115

サウジアラビア（マレーシア産）



أجي نو موتو

参照資料

取扱注意：
開封しないでください。

レストランでも家庭でも普通に使われています。一般的に言ってアラブ人は濃い味付けを好むので、薄味の日本料理はそれほど広まっていません。カップラーメンなどはスーパーでも売っています。

西尾先生からのひとこと

日本食といえば寿司が思い浮かびますが、コーランでは生の魚を食べてはいけないことになっています。遊牧民の長老に寿司の話をしたところ、たいそう驚いていました。魚はフライにして食べるのが普通です。

タトゥー 〈ヘンナ〉

イスラム教とアラブの世界

B0116

サウジアラビア



参照資料

取扱注意 :
実際の使用はご遠慮
ください。

حناء

女性は、ヘンナと呼ばれる植物からとった染料で手足に絵を描く習慣があります。非常に細かい模様なので、型紙を使ったり人に手伝ってもらったりします。描いた絵は2～3週間は消えません。

西尾先生からのひとこと

ヘンナは薬にもなり、大昔から使われてきた染料です。クレオパトラもヘンナを使って爪を染めていました。100パーセント天然の染料ということで日本でも注目されはじめ、これで髪を染める人も出てきました。

女性用衣装

B0117

サイダ/レバノン

イスラム教とアラブの世界

参照資料

『アラブ・ムスリムの日常生活』 p.69～p.70

『カラー版 メッカ』 p.163

『イスラームの日常生活』 p.74

a

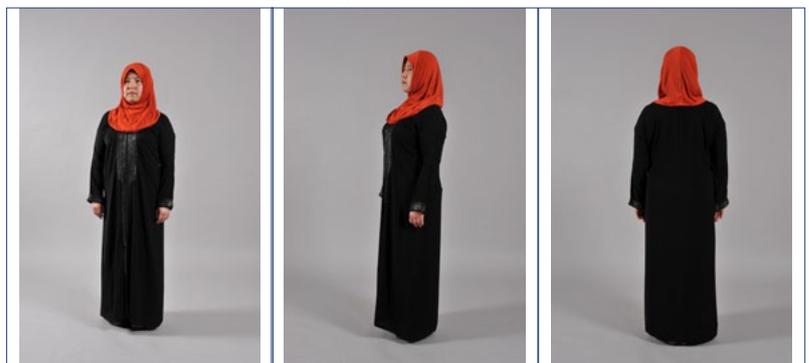


b



توب

حجاب



a 女性用外套〈トуб〉 b スカーフ〈ヒジャーブ〉 ※着用方法は同梱資料参照。

女性が外出時、通常の衣服の上に着る外套とスカーフです。イスラム教では、女性は「美しいところ（＝肉体）は人に見せないよう」にすることが望ましいとされています。体の線がみえないようにするためのものなので、たつぷりとしたつくりになっています。10～12歳ごろから身に着けるのが一般的です。欧米におけるフェミニズム運動の高まりを受けて、女性抑圧のシンボルと扱われていた時期もあったため、かつては高学歴女性のなかには、身に着けない者も多かったです。現在はイスラム復興運動の影響により、すすんで身に着ける女性が増えています。なお、顔を隠すための「ニカーブ」という布もありますが、顔を隠すことについては、イスラム教で特にきまりはありません。

菅瀬先生からのひとこと

もちろん、この外套の下には通常の衣服を着ています。親兄弟には体の線を見せてもかまわないので、来客があるとき以外は、家庭で身に着けることはありません。パレスチナに留学していたとき、女子学生寮に住んでいたのですがみな普段はジーンズにTシャツというラフな格好をしていました。ガス会社の男性が訪ねてきたとき、あわてふためいてトубとヒジャーブを身に着けていたのが、ほほえましかったです。中東で西洋化がもっとも進み、海に面したレバノンでは、ビーチで露出度の高い水着を着る女性もいますが、今でも多くのイスラム教徒女性は、トубを着たまま海水浴をします。イスラム教徒でなくとも、イスラム教徒と接するときには、トубやヒジャーブを身に着けると尊敬される傾向があります。また、トубにもヒジャーブにも流行があり、ことにヒジャーブは、おしゃれな女性ならば材質や柄にこだわるだけでなく、巻き方にも工夫をこらします。現在（2012年）レバノンでは、髪を高く結った上に柄物のヒジャーブをかぶり、たくさんドレープをつけて、豪華に巻くのが流行っています。ただし、そのように巻くには、相当の気合いと時間、そして手先の器用さが要求されます。固定するために、待ち針をたくさん使うので、激しく動き回ることできません。対して、このヒジャーブは、頭にくぐらせるだけの簡易版。朝忙しい女性や、まだヒジャーブを巻き慣れない少女たち、あるいは不器用な女性のためのものです。日本のみなさんにも、手軽にヒジャーブを体験していただくために、あえてこれを選びました。

男性用外套〈アバーヤ〉

イスラム教とアラブの世界

B0118

サイダ/レバノン



عباءة

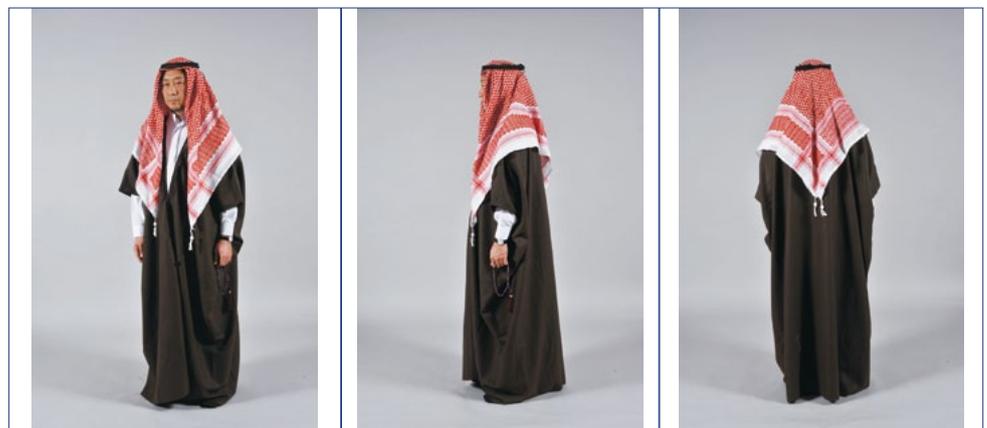
参照資料

『アラブ・ムスリムの日常生活』 p.68 p.25

『カラー版 メッカ』 p.116、p.180 他

『イスラームの日常生活』 p.199

季刊民族学 No.125 p.45～p.59



イスラム教徒の男性の、一般的な服装です。

菅瀬先生からのひとこと

このような格好をしている男性は、今では都市部ではすくなくなりました。

魔除け・邪視除け

イスラム教とアラブの世界

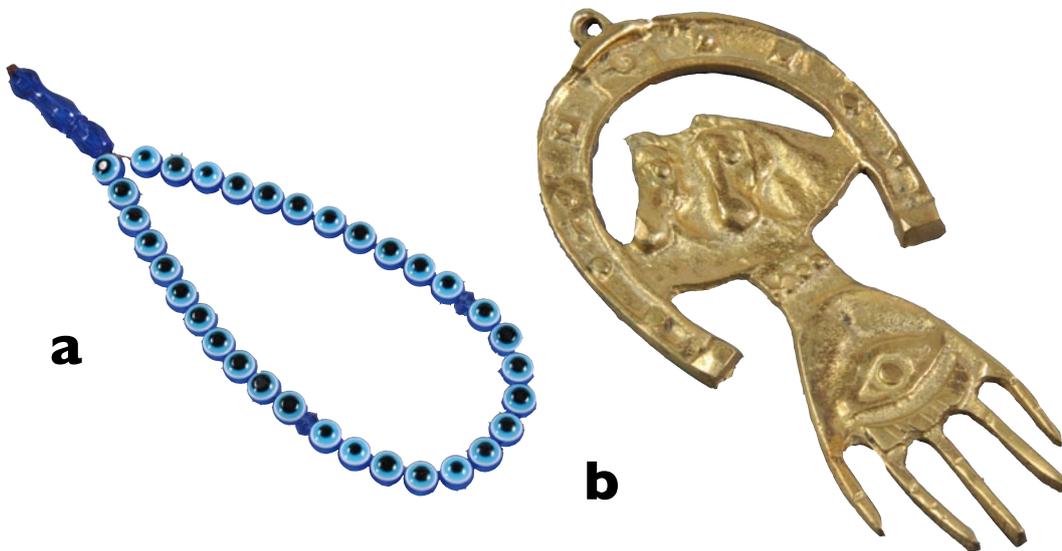
B0119

サイダ/レバノン

参照資料

『アラブ・ムスリムの日常生活』p.196～p.197

『イスラームを知る 6
新月の夜も十字架は輝くー中東のキリスト教徒』p.34



مسبحة

يد فاطمة

a 魔除け用数珠〈マスバハ〉 b ドア用邪視除け〈ヤド・ファーティマ〉

数珠はイスラム教でも重要な礼拝道具であり、男性も女性も持ち歩いています。ただし、この数珠は礼拝ではなく、魔除けのためのもので、自動車のバックミラーにかけられているのを、よくみかけます。中東地域では、魔除けとして目をあしらったアイテムが多用されています。この場合の魔とは、他人からの嫉妬の視線、すなわち「邪視」のことです。目のほかに、手をあしらった「ファーティマの手」という護符にも、邪視を除ける力があると信じられています。また、色にも重要な意味があり、青、ことにこの数珠のような濃い青には、邪視除けの強力な力があるとされています。そのため、邪視除けの目の形をしたお守りは、たいてい青色をしています。

菅瀬先生からのひとこと

邪視にまつわる俗信は、イスラム教以前の慣習に由来しています。中東だけではなく、インドやヨーロッパの地中海沿岸でもみられるものです。青い目のお守りは、トルコ語では「ナザール・ボンジュウ」といい、最近日本でもエスニック雑貨店でよくみかけるようになりました。観光地では、ストラップの好きな日本人のために、邪視除けストラップが商品化されて、お土産屋で売られています。赤ちゃんの産着には必ずつけられますし、成人後も多くの人がペンダントやブレスレットにしたり、車や家につけたりしています。もっとも、家につける場合は、これみよがしにじゃらじゃらとつけるよりも、こっそりドアの裏や、玄関の上などにつけるほうが効果的だと考えられています。他人の邪視除けに、みだりに触るのもご法度。日本の神社のお守りを、「邪視除け」だと紹介したら、それまで興味深げに触っていた少女たちが、びっくりして手を放したこともあります。また、ドア用邪視除けは、蹄鉄と組み合わせられているのが、興味深いところ。蹄鉄をラッキーアイテムと考えるのは、アラブではなくヨーロッパの慣習なので、双方の慣習が交錯した末にうまれたものといえます。

身だしなみ用品

イスラム教とアラブの世界

B0120

ハイファ／イスラエル
ダマスカス／シリア

参照資料

『イスラームの日常世界』p.55～p.56

a



صابون

b



مسواك / صواك

a せっけん〈サープーン〉 b 歯ブラシ〈スィワーク、ミスワーク〉

東地中海地域のなかでも、シリア、レバノン、パレスチナは、せっけんの発祥地といわれ、地元産のオリーブオイルを使ったせっけん製造が、古くからおこなわれてきました。また、イスラム教では身体を清潔に保つことが信仰の一部と考えられており手足と顔、口を丹念に清めること（ウドゥー）が、礼拝の条件とされています。今日でも、東地中海地域ではローマ時代の慣習を取り入れた蒸し風呂、ハンマームが各地で見られます。レバノンやシリアのハンマームでは、地元産のせっけんが納品され、使われています。スィワーク、あるいはミスワークと呼ばれる天然の歯ブラシは、サウジアラビア産です。樹皮を剥き、内部をササラ状にほぐして使用します。プラスチック製の歯ブラシが普及した現在も、この天然の歯ブラシは中高年男性に根強い人気があり、ことに歯についた煙草のヤニ取りには最適といわれます。

菅瀬先生からのひとこと

レバノンではサイダとトリポリ、シリアではアレppo、パレスチナではナーブルスが、せっけんの産地として有名です。アレppoやナーブルスのせっけんは、日本にも輸出されており、肌にやさしいと評判です。せっけんを買って郵送するとき、「日本で、アラブの文化を紹介するための標本にする」と説明したら、雑貨屋の店主や郵便局員がとても誇らしげにしていました。一目目立たないものですが、彼らにとってはそれほど自慢できるものなのでしょう。ちなみに、このぼっくに入っているパレスチナ産のせっけんは白いのですが、アレppo産のせっけんは外側は茶色ですが中身はきれいな緑色。これは、オリーブオイルに月桂樹の実からとれるオイルを混ぜて作っているためです。月桂樹のオイルは髪によいとされており、肩こりや捻挫に塗布する民間薬としても使われています。とても高価なもので、月桂樹のオイルが含有されている割合が高いほど、せっけんの値段も高くなります。

イスラム教とアラブの世界

参照資料



کتاب "جحا و القاضي الظالم"

『ジュハーとあくどい裁判官』というタイトルの、子ども向け絵本。7～10歳程度が対象と思われます。

菅瀬先生からのひとこと

ジュハーとは、アラブ世界では有名な説話の主人公。トルコではナスレディーン・ホジャと呼ばれています。日本の一休さんや吉四六さんに相当し、実際よく似た話がいくつもあります。とんちを使い、あるいは道化に徹して権力者の愚かさを笑い飛ばすという筋書きが多く、この絵本の物語は、その典型といえます。